

実施クラス	実施日	実施保育者名
4.5 歳児 たいよう、にじ組	月 日 ()	菅原悠花

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～自然～ 公園にあるものを調べよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の戸外活動では、草花や木の実を見つけて集めて遊ぶ姿がある。また、室内活動では、図鑑で調べたり、友達と見せ合ったりする姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> 公園にはどのようなものがあるか話し合う。 子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 公園へ行って話し合ったものがあるか見に行く。 どこの公園に行くか、何を持っていくか話し合う。 公園にもっていく図鑑やスマートフォンやデジタルカメラの使い方も話し合う。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 公園や園庭など、安全に探索できる場所を選定する。 公園内のルールを確認する。 事前に探索ルートを決め、安全面に配慮する。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> 公園で興味のある生き物や、植物を探る。 見つけたものを図鑑で調べたり、写真に撮って記録する。 それぞれ好きなものを探し、調べながら、わかったこと、気づいたことを伝え、会話しながら活動する。 持ち帰ることができるものについては、どのように持ち帰るか考える。 	【活動使用教材】 <ul style="list-style-type: none"> ポケット図鑑 ペットボトル（枯れ防止） 収集したものを入れる袋 かばん（図鑑を入れるため） スマートフォンやデジタルカメラ ホワイトボード ホワイトボードマーカー
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> 公園で見つけたこと、感じたことを話し合う。 友達の話聞いてどう思ったかを伝える。 今日の調べたり、記録をとった植物などをどうするか話し合う。 今後、図鑑や地図を作っていこうと提案する。 次回は公園でどのようなものをもっと探したいか、調べたいか考えてみる。 	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> 植物が多くある公園や場所を選定する。 子どもたちが日頃からポケット図鑑を触れる機会を作る。 スマートフォンやデジタルカメラ残量を確認しておく。 探究活動に使用する用具（ポケット図鑑、かばんなど）使用方法をあらかじめ設定しておく。 絵本の作り方を調べておく。（綴じ方） 図鑑見本に載せる植物や写真を用意しておく。 図鑑用の冊子見本を作成しておく。（3～4ページ） 図鑑用の台紙、冊子にするための製本テープ セロテープやのり 筆記用具（鉛筆、色鉛筆、カラーペンなど）

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、公園にはどのようなものがあるかを話し合い、「花」「虫」「きれいな石」など、自分なりに興味のある対象を考える姿があった。</p> <p>・公園では、それぞれが気になる草花や虫を見つけ、図鑑で名前を調べたり、撮影したりした。</p> <p>・調べた情報や写真は、後の振り返りに活用した。</p> <p>・持ち帰りが難しい植物については、その場で写真に収め、観察ポイントを言語化する姿があった。</p> <p>・振り返りでは、見つけたものについての感想や、調べた内容を共有し合い、「名前を初めて知った」「色が変わるところがすごいと思った」などの声が聞かれた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この花、見たことあるけど名前わからない。」 ・「この図鑑に似てるのが載ってたよ。」 ・「友だちの見つけたものもおもしろい。ぼくも探したい！」 ・「調べたら『カラスノエンドウ』だった！」と、発見を友達に共有する姿が見られた。 ・持ち帰りが難しい植物については、「じゃあ写真にして図鑑に貼ろう。」と提案する子もいた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなところにその花があったの?」「どうして気になったの?」と問いかけを通して思考を促した。 ・カメラ等使用前には「何を撮る?」「この写真をどうしたい?」と考えを整理できるように声を掛けた。 ・図鑑の調べ方が分からない子には、一緒にキーワードを探しながら調べる経験を共有した。 ・活動中のつばやきやつながりを受け止め、次への探究へとつながるよう言葉を返した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは自然物に対して「なぜ?」「なんだろう?」という気持ちを持って関わる姿が多く見られた。</p> <p>・図鑑を通して、自分なりの問いを深めていくきっかけが生まれ、楽しさや満足感を感じていたように思う。</p> <p>・活動の中で、保育者が誘導するのではなく、子どもが自分の視点で興味をもつ時間を大切にすることで、他の子の視点にも気づきが生まれた。</p> <p>・また、振り返りでは自分の言葉で体験を伝える子が多く、今後の活動にもつながる様子が見られた。</p>	<p>子ども一人ひとりの気持ちを大切にしたい関わりが、子どもの主体的な学びにつながっていると感じた。保育者が答えを示すのではなく、興味をもった視点を尊重することで、子ども同士の気づきが広がり、学び合う姿が自然と生まれていた点が印象的だった。また、図鑑を使うことで探究する楽しさを味わい、自分の発見を言葉で伝えようとする姿から、経験がしっかりと心に残っていることが伝わってきた。今後も、子どもの思いや発見を受け止めながら、次の活動へとつながる環境づくりを大切にしていきたいと感じた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
4.5 歳児 たいよう、にじ組	7 月 2 日 (水)	菅原悠花

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~水~ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:10	・水とは何かを問いかける。 ・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めめるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10~10:30	・水を水槽やコップに入れて観察してみる。 ・さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。 ・水の流れを探究してみる。 ・温度で水がどのように変化するかを調べてみる。	【活動使用教材】 ・水 ・絵の具(水色) ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器(皿、コップ、袋など) ・スロープ ・電気ポット ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:30~10:40	・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化など体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この花、見たことあるけど名前わからない。」 ・「水色って水の色とは違う。なんで絵具はこの色なんだろう？」 ・「水って形ない！」 ・「何度も水を流しては道を変え、「どうしたらうまく流れるか」を試行錯誤していた。 ・発見を友達に共有する姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った？」「Bちゃんは どうだった？」と対話をつなげた。 ・こぼしたり、うまくできなかった場面では「ためしてみてもいいね！」と失敗も前向きに受け止め、再挑戦を促した。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、普段当たり前に触れている水にも強い関心を持っていることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんで？」「どうしてこうなるの？」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。</p> <p>・子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった。</p> <p>・「やってみたい」「もう一回やりたい」という声が多く、体験そのものが子どもにとっての学びの原動力であることを再認識した。</p> <p>・保育者が「教える」のではなく、「一緒に気づく・一緒に不思議がる」スタンスで関わることが、探究的な学びの促進につながると感じた。</p>	<p>子どもたちは、発見や疑問をもちながら、何度も水を流して道を変えるなど、自分で試して考える姿勢が見られ、友達と発見を共有したり意見を伝え合ったりすることで、他者との関わりやコミュニケーション力も育っていることが伝わった。保育者は、子どもの気づきを肯定しながら、問いかけたり、みんなで意見を共有できるように対話をつなげたりすることで、考察や学びを深める関わりを行っていた。さらに、失敗やうまくいかない体験も前向きに受け止め、再挑戦を促す声かけによって、挑戦する意欲や粘り強さを育てていると感じた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
4, 5 歳児 たいよう、にじ 組	10 月 1 日 (水)	菅原悠花

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。 	【環境設定】 ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クちなシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨)
10:15～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・白い画用紙を選んだ色と同じ色にしてみようと問いかける。 ・素材から何色になるのかを想像して白画用紙にこすりつける。 	・寒色暖色中間色の色見本 【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 →16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット)
10:30～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。 	・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クちなシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>色の違いや成り立ちについて関心をもち、積極的に考えながら活動を進めた。「この青は冷たそう！」「黄色は元気になる色！」と色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。また、実際に12色の中から好きな色を選び、「この色が好きな理由」を考えることで、色への理解を深めていた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色は明るくて楽しい感じ！」「紫って、どんなものからできているの？」「赤と青を混ぜたら、何色になるのかな？」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色を見てどんな気持ちになる？」「どんな場面でこの色が使われているかな？」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また、異なる文化や歴史における色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心をもち、「もっといろいろな色を見てみたい！」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、「この色はどんな気持ちの時にいいの？」と質問する姿が見られた。 	<p>子どもたちは色の見え方や混ざり方に気づき、自分の考えや疑問を言葉にして表現しており、観察力や好奇心が育まれている様子が見える。保育者は問いかけや文化・歴史の紹介を通して、色の意味や使われ方に気づき、興味を広げる学びを支えており、子どもたちが楽しみながら深く考えられる活動になっていると感じた。</p>